

## 第20回 仁淀招待球技大会

7月10日 今年で二十回を数える伝統の「仁淀招待球技大会」が、仁淀中学校・吾川中学校を会場に行われました。

この大会は仁淀地区青少年健全育成会議の主催で行われ、開会式では若藤仁会長が選手を激励しました。

バレーボール(女子)、ソフトボール(男子)、卓球(男女)の競技が行われ、開催校の仁淀中学校を含め十七校が熱戦を繰り広げました。

県大会出場を逃したチームにとっては三年生最後の公式試合となり、応援に駆けつけた多くの保護者からも熱い声援が送られました。各競技の成績は次のとおりです。

### 卓球男子団体の部

- 1位 三里中学校
- 2位 朝ヶ丘中学校
- 3位 浦ノ内中学校

### 卓球女子団体の部

- 1位 香長中学校
- 2位 三里中学校
- 3位 葉山中学校



### バレーボールの部

- 1位 土佐南中学校
- 2位 吾川・池川中学校
- 3位 仁淀中学校
- 3位 黒岩・尾川中学校

### ソフトボールの部

- 1位 香北中学校
- 2位 吾川・池川中学校
- 3位 嶺北中学校
- 3位 大正中学校



バレー優勝の土佐南中チーム



ソフト優勝の香北中チーム

## 豊作の願いこめて 里山の虫送り

豊作を願い、害虫を追い払う伝統行事「虫送り」が今年も行われました。

虫送りは日本の伝統行事の1つで、農作物の害虫を駆除し、その年の豊作を祈願する目的で初夏に行われます。

**7月4日** まだ梅雨が明けぬ曇天のこの日、上川渡・戸立合同の虫送りが行われました。

昨年まで7月1日に行っていましたが、「少しでも孫や子、若い人が参加できるように」と、今年から日曜日に行うことにしました。

両集落から集まった人たちが上川渡の大師堂を出発し、下川渡との集落境までの約1kmを太鼓とかねをたたいてはやし、のぼりを手に練り歩きました。

当日、出発前には宴会も行われ、和気あいあいとした雰囲気で、団結力を深めていました。



集落境まで送って行きます



最年少参加者も頑張ってます

# 集落見聞録

(第46回)

## いわ 岩 丸 まる

集落に詳しい山本榮太郎さんと、区長の今村隆幸さんにお話を伺いました。

現在は住宅が立ち並んでいる岩丸ですが、昭和二十年ごろは集落の大半を畑が占めていました。

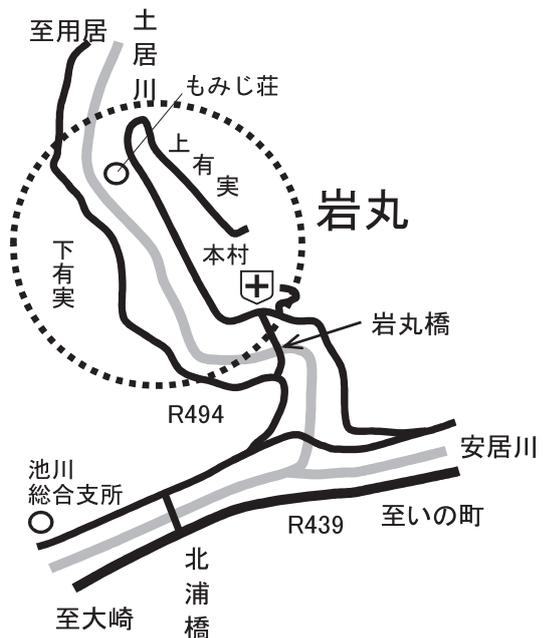
どこの家も農業を営んでおり、野菜や麦、キビなどを作ったり、養蚕で生計を立てていました。

良い繭はそのまま出荷し、二級品は家の機織り機で織り上げ、付加価値を高めて収入を得ていたそうです。絹糸で魚を捕る網を作り、よく川に行ったとも話してくれました。



岩丸集落

岩丸集落は池川総合支所から車で約3分、6月末現在144世帯229人の集落で、本村、下有実、上有実の3地区に分かれます。池川の中心部に近いことから、岩丸以外の集落出身の方が家をかまえることも多く、また特別養護老人ホームなどがあることも世帯数が多い要因の1つです。



## 土居川に沿って住宅が並ぶ静かな集落

作業、桑を切って運ぶなど、家の様々な仕事を手伝い、それがどこの家庭でも当たり前の時代でした。

お二人は「昔はこんなもんやと思うてやりよった。今じゃとてども」「雨の日に桑

を運ぶのや、雨で倒れたキビをなおしに行くのが嫌やったね」と昔を思い出して談笑していました。

終戦後の植林ブームで、岩丸でも畑を植林に替えた家が少なくなかったそうです。当時は伐採した木を担いで車道まで運び、苦勞して出荷していましたが、次第に需要も少なくなり値が落ちたことから「山で収入を得るのは難しい」と、人々は林業から離れていきました。

和四十六年に岩丸橋ができてからは車道も整備され、交通の便が格段に良くなりました。そのころからよその集落から移り住む人も増え、農村地帯から住宅地へと変貌していきました。

区長の今村さんは「町に近いが静かな所です。自分の畑で野菜を作っている家が多いので、元気なお年寄りが多く、世帯間のつながりを深めて協力し合い、より心豊かに暮らせる集落になればいいと思います」と話してくれました。



山本さん(左)と区長の今村さん

町(土居)とは木のつり橋で行き来していましたが、昭

和四十六年に岩丸橋ができてからは車道も整備され、交通の便が格段に良くなりました。そのころからよその集落から移り住む人も増え、農村地帯から住宅地へと変貌していきました。

磐麻呂神社  
集落(本村・上有実)の氏神。夏と秋に神祭が行われます。



# ALTお別れのあいさつ

ザック・スターン先生より

仁淀川町の皆さん、2年目のALTザックです。今月アメリカに帰ることになりました。この2年間で早く過ぎたような感じもしますが、振り返ってみるとたくさんの方々に出会って多くを経験してきたと気付きます。

皆の名前を一人一人書くのに時間が足りませんが、数えきれないほど多くの皆さんに感謝を申し上げたいと思います。あまりホームシックを感じていなくて、この仁淀川町を大好きになったのは皆のおかげです。子どもたちが積極的に授業に参加してくれたからこそ英語を教えるのが楽しかったです。

町内の店の皆さんに大変お世話になりました。町民の皆さん、自分の家庭に誘ってくれたり、いつも優しく声をかけたり、美味しいものを食べさせたりしてくれて本当にありがとうございました。

仁淀川町で2年間生活をさせてくれて、皆と触れ合えるチャンスが与えられたことが宿命だったかも知れませんが、僕により相応しいところが日本にはあるとはとても思いません。町内の行事やお祭りに参加させていただいたことを通じて、仁淀川町の素晴らしいところをたくさん知りました。

自分の自転車で仁淀川町の至るところまで走ったことを通じて仁淀川町の素敵な自然を実感しました。仁淀川町の中でも、地域の独特さを体験することが面白くて、本当にそれぞれの地域にはユニークなことはいっぱいあると思いました。

仁淀川町が大変な状態にあると言われますが、町のために一生懸命働いている人々がたくさんいますので、僕が帰ってきたらより元気な仁淀川町を見られると信じています。

アメリカに帰って、日本語を生かせる仕事に就きましたので、皆が教えてくれた土佐弁を忘れないように頑張っていきたいです。

できれば来年の秋葉まつりに参加させていただけるように仁淀川町に帰りたくて考えています。

皆さんから、自分の人生には大きな良い影響を受けました。それで改めて感謝の気持ちを申し上げたいと思います。ありがとうございました。またどこかで、いつか会おうね。

モニカ・ロイド先生より

とうとうみなさんとお別れする時が来てしまいました。

この町の素敵な生徒たちとたくさんの思い出を作ることができ、この4年間は本当に素晴らしい日々でした。

私は、私の故郷の文化と英語を生徒たちと分かち合うために、ここに来ました。でも、私の方がみなさんとの交流の中で多くのことを学ばせてもらいました。私は決して、あなたたちの笑顔を忘れません。

この町は、私にとっても居心地のよい環境と、写真という新しい趣味を与えてくれました。みなさんの温かいご支援のお陰で、ALTとしての仕事と日本での生活がとても充実したものになりました。

いつも親切にさせていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私が仁淀川町で過ごしたことを生涯忘れることはないでしょう。4年間、お世話になりました。

ほんとうにありがとう。

7月14日  
大崎小学校「お別れ会」にて



7月6日  
仁淀中学校2年生の英語授業

